

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 0900080

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成24年度～平成26年度 ・事業概要 ①預託費の1/4補助 ②哺乳牛施設に要する費用の1/4 ③育成舎等の増改築に係る費用の1/4 (①～③の合計額：限度額1戸当たり100万円) 平成27年度～平成29年度 (①～③の合計額：限度額1戸当たり150万円) ※平成28年度～ ①預託費の1/3補助
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	3 生産技術の向上	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	農業経営改善等対策事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	事業申請者戸数		#N/A	
事業目標	15戸	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町農業経営改善等緊急対策事業補助金交付要綱	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	本町の酪農家が安定的な営農活動を図るため、雌雄判別精子の交配による優良雌牛を生産し、生乳生産量の拡大を図っているが、増頭となった雌牛が確実に飼育・搾乳されるよう、飼養に要する経費の一部を助成する。 ・3ヶ年の緊急対策事業とし、1戸当たり補助上限を3ヶ年で1,000千円とする。 本町酪農業を取り巻く厳しい状況を鑑み、酪農業経営者に対し、育成牛等の飼養環境の改善を支援することにより、ゆとりある酪農経営や、育成牛等の良好な生育環境の確保を図り、生乳生産量の確保等農業所得向上を進め、本町酪農振興に資することを目的とする。 ・平成27年度から3ヶ年事業を継続し、1戸当たり補助上限を1,500千円とする。	雌牛の飼養に要する費用の助成 15戸 × 1,000千円 = 15,000千円	雌牛の飼養に要する費用の助成 15戸 × 500千円 = 7,500千円	・預託料助成事業 ・育成牛施設等助成事業 ・哺乳牛施設助成事業	・預託料助成事業 ・育成牛施設等助成事業 ・哺乳牛施設助成事業	・預託料助成事業 ・育成牛施設等助成事業 ・哺乳牛施設助成事業	
	事業費(千円)	65,361	15,000	7,500	9,000	19,861	14,000
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	1,160				1,160	
一般財源	64,201	15,000	7,500	9,000	18,701	14,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	69,507	6,635	8,439	19,391	23,844	11,198
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	1,160				1,160		
一般財源	68,347	6,635	8,439	19,391	22,684	11,198	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	指定寄附金 ※よつ葉乳業(株)創立50周年記念寄附金	【評価・実績】	雌牛の飼養に要する費用の助成	雌牛の飼養に要する費用の助成	・預託料助成事業 29戸 ・育成牛施設等助成事業 28戸 ・哺乳牛施設助成事業 7戸	・預託料助成事業 32戸 ・育成牛施設等助成事業 23戸 ・哺乳牛施設助成事業 1戸	・預託料助成事業 27戸 ・育成牛施設等助成事業 5戸 ・哺乳牛施設助成事業 1戸
			※事務事業評価結果 B-継続/拡充	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/拡充	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/内容の見直し・変更
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	申請農家戸数 15戸	申請農家戸数 15戸	申請農家戸数 18戸	申請農家戸数 18戸	申請農家戸数 18戸
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	44%	113%	215%	120%	80%
	全体達成率	10%	23%	53%	89%	106%	
	備考欄						

事業名	農業経営改善等対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農務係長	小野 隆行

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	畜産農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業申請農家								
【抱える課題やニーズは】	生乳生産量増大のための増頭により、施設(設備)の改修等が必要となるほか、飼養経費の増加が酪農経営を圧迫している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	育成牛の飼養環境の改善	① 事業申請者戸数(実数)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>18戸</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>33戸</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>183.3%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	18戸	実績値	33戸	達成度	183.3%
目標年度	平成29年度										
目標値	18戸										
実績値	33戸										
達成度	183.3%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	生乳生産量の増大による農業所得の向上	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	預託料、施設整備費の助成	対象事業を行った酪農家に対し、費用の一部を補助した。 ※平成27年度から補助対象期間(3年)の1戸当たりの限度額を引き上げた。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	飼養環境の改善及び規模拡大の支援は、酪農経営の安定化を図るため必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	預託料の増加や施設(設備)の改修等による酪農経営者の負担を軽減することで、経営改善が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	公共牧場等の預託牧場を利用する農家が増加し、育成牛に関する労働時間の削減により、飼養管理の向上が図られた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	畜産農家全戸を対象とした支援であり、経営の安定化は本町の酪農振興につながることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
積極的な事業の活用により、酪農経営者の負担軽減とともに飼養環境の改善が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/内容の見直し・変更		
預託料の助成については、新たに3年間の事業として継続するが、施設整備の助成については、「雄武町農業経営規模拡大促進条例」を制定したことから、農業生産規模拡大促進事業に集約する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 休止 廃止